

(E.ウ)

「そばくいだぬき」

瀬澤よし子 / 作 梅田俊作 / 絵

つきよのばん、ふむとのむらほ、しんとねしずま、て
いました。やますそのあたりで、かさりごりりと
おとがします。たぬきです。たぬきたちは、
ごすけどんのそばばたけで、あどろうたって、はたけを
あらしめます。ほんどもそばばたけをあらすれたごすけ
どんは、家にやってきたたぬきのあおあやぶんの
正体を見やぶって、ぼうでほかり!

にげていくあおあやぶん、あとを見ると?

ごんぎつねのようなたぬきですが、
やっぱりたぬきはどこか
ユーモラスで可憐。

「ばけくらべ」(E.セ)

松谷みよ子 / 作 瀬川康男 / 絵

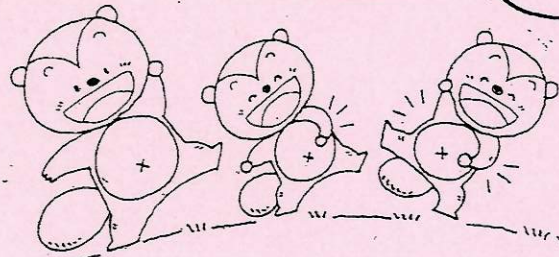
きつねとたぬきが、どちらがばけるのがうまいか、
ばけくらべをしようということになった。

ごんべえだぬきはなかまをあつめ、ほににばけるか
そうだんした。ほはよめぎょうれつにばける
ことにきまり、きつねのところにあつたが、

へらこいぎつねのばけたまんじゅうに、すっかりしてやられた。

「よーし、いまにみてあれ。」たぬきたちはもういちど
あつまってそうだんした。

さてさて、たぬきたちのさくせんは?



たぬきゅうがれる
ポンポッ本
(ポン)

(E.イ)

「たぬきのちょうちん」

浜田廣介 / 作 いもとようこ / 絵

「おじいさんのおじいさんが、な、
ある日、わたしにいったのさ——」
なにか一つをしっかりとあほえて、やくにたてれば
それでよい。……」おじいさんたぬきは、まごの
たぬきに言いました。そして、自分があほえた
ちょうちんのばけかたをおしえてくれたのです。
あまつりのばん、村のはすれのやなぎのえだに
ぼつんとさかっていたちょうちんは、とある人のやくに
にちました。

「ほせ、うれしいか、ほくわがる。」と
目をかがやかせてきいていた
まごのたぬきはどうした
でしょうね?



(E.フ)

「夕又きが教えた立て札」

金森三千雄 / 作 赤岩保元 / 絵

おじいさんは、こまっています。せっかくつった火の
豆を、ウサギが食べてしまうのです。

わなをしかけましたが、ウサギはつかまえられません。
そんなある月夜、子夕又きがやってきて、いい考えを
教えてくれました。

『この豆は、だれがくうた。キツネがくうたと
ウサギがいった』とかいた立て札を
たてればいいというのです。

おじいさんは、子夕又きの言ったとおりに
板にかきました。さてさて、
だいいぢな豆は、食べられずに
すむのでしょうか?

(E.オ)

「おかえし」

村山桂子 / 作
織茂恭子 / 絵

ある日、たぬきのいえのとなりで、きつねがひっこしてきました。
きつねのおくさんは、たぬきのおくさんのところへ、かごいっぱい
の、いちごをもってあいさつにきました。

たぬきのおくさんは、よろこんでいちごをもらい、ほにか
おかえししなくっちゃと、たけのこをもらっていきました。
ところが、しばらくすると、またきつねのおくさんが
やってきて、おかえしのおかえしに、お花を
もってきてくれたのです。……

おかえしは、いつまでつづくの
でしょう?

